Pick Up!

誕生から百周年を記念して陸羽（りくう）132号を田植え・収穫

江刺稲瀬の住民団体「稲瀬農業の未来を考える会」は、金札米百周年を記念して江刺金札米の起源となった品種「陸羽132号」の田植えと稲刈りを稲瀬学童農園水田で行いました。今回のイベントは、地域産業である農業を未来につなげようと企画されたもの。種もみは、今年3月に陸羽132号を栽培する一関市の市民団体「里山ジャパン」から稲瀬振興会に寄贈されたものが使用されました。

田植えは5月10日に行われ、関係者約50人はそれぞれのペースで陸羽132号の苗を大事に手植えしました。9月3日に行われた稲刈りでは、参加者約30人は晴天の下、丁寧に稲を刈り取りました。稲刈りに参加した今年米寿の小原高子さんは、「穂は大きく重みがあって、出来栄えがとても良かったです。この先も金札米がずっと続いてほしい」と笑顔で話しました。

また同地区の稲瀬小学校では、毎年5年生が「お米の学習」で田植え体験と稲刈り体験を行っています。新型コロナウイルス感染症対策で田植えは同日に時間をずらして行われ、稲刈りは、9月10日に児童と保護者の約30人で行われました。

当日は慎重に鎌を使いながら協力して稲を刈り取り、稲を積み上げて立派な「ホニオ」（ホンニョ）を完成させました。

丁寧に束ねられる稲

手植えをする参加者

参加した関係者と稲瀬地区の米寿の皆さん

保護者と協力して作業を進める稲瀬小の児童たち

稲瀬学童農園水田を管理している

廣野 勝司 さん（77） ＝江刺稲瀬字広岡＝

この田んぼは、「稲瀬の財産」として代々引き継がれている田んぼです。昭和50年ごろから管理に携わり、毎年稲瀬小学校の子どもたちにお米の授業をしています。

今年教えた子どもたちはとても素直で、丁寧に作業した分、例年と比較して収穫が多かったです。毎年活動に協力いただいている地域の皆さんに感謝していますし、「地域の伝統」として子どもたちにお米の大切さを伝える授業は継続していきたいと思います。

Key Parson Interview Ⅰ

今年の金札米は特別な思いで――百年の歴史に感謝

岩手江刺農業協同組合
営農推進部　流通販売課　課長
及川 央（あきら） さん（41） ＝江刺・藤里出身＝

私が在籍する流通販売課では、通信販売部門、玄米を精米し店頭に並ぶ商品の形にする中央精米センター、その商品を販売する金札米販売センター、産直江刺ふるさと市場があり、約50人の職員が江刺金札米をはじめとした商品をさまざまな方法でお客さまにお届けしています。

金札米販売センターでは江刺金札米をメインに扱っており、市内のスーパーなどの店舗や、地元企業の社員食堂への配達をしております。遠方のお客様からは電話やインターネットでご注文をお受けしていますし、最近では市のふるさと納税の返礼品としてもご好評をいただいています。お客さまと直接お話をさせていただくことも多く、いただいたご意見を基により良い商品づくりへとフィードバックしています。

江刺金札米は江刺産の「特別栽培米ひとめぼれ」です。「特別栽培」とは、農薬と化学肥料を県が定める基準の半分以下で栽培するもので、平成16年より江刺地域全域で取り組んでいます。江刺のように、全域で特別栽培に取り組んでいる産地は全国でもまれで、注目を集めています。安全・安心なお米を消費者の皆さまにお届けするため、地域が一丸となって取り組んでおり、確かな信頼につながっています。

今年、江刺金札米が百周年を迎えたことを記念し、今年の新米から百周年記念パッケージのパック米を販売しています。「パック米」は、真空パックにする際に炭酸ガスを封入してお米を冬眠状態にする「冬眠密着包装」という技術で、袋を開けたときに精米したての美味しさが味わえます。炊いた時の食感はもちもちして甘みが強く、冷めても美味しいのが特徴です。贈答用として好評を博していますが、今年は特に「ぜひ記念パッケージを贈りたい」との声をたくさんいただいています。

百周年の文字の横にあるのは、現在のロゴマークと、かつて「赤札米」と呼ばれていたことに由来する赤札のイラストで、中央には江刺金札米のトレードマークである「大黒様」のイラストを復刻させました。特別な贈り物におすすめですし、こだわりがたくさん詰まったお米なので、まだ味わったことがない方にはぜひ江刺金札米を味わっていただきたいです。

歴史のある江刺金札米を支えている農家の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。農家の皆さんの所得につながる販売を行っていくことが私たちの使命ですし、意欲を持って安全・安心な江刺金札米を作っていただけるよう、これからも共に支えあって歩んでいけるよう精進してまいります。

江刺金札米100周年記念プロジェクト・イベントのお知らせ

「江刺金札米学会」シンポジウム

■**日時**　11月19日㊎午前10時～午後5時
■**場所**　ホテルニュー江刺新館Ｅａｓｅ（イーズ）
■**定員**　50人（会場）、オンラインも併催
■**申し込み方法**　メールかファクスで申し込む
■**参加料**　無料
■**問い合わせ・申込先**　ＪＡ江刺米穀課（☎35-7352、FAX35-0210）
※オンライン参加希望者は✉BD0004@pref.iwate.jp（県南広域振興局農政部）

「江刺金札米100周年記念博物館」

100周年を記念して常設コーナーの内容を充実させ、これまでの江刺金札米の歩みを振り返ります。

■**開催期間**　11月20日㊏～4年3月27日㊐
■**場所**　えさし郷土文化館常設展示コーナー
■**展示内容**　金札米の歴史の紹介や、生産を支えた農業機械、米俵の復刻など
■**入館料**　300円
■**問い合わせ**　えさし郷土文化館（☎34-1582）